

6月1日「国民の森」の見学会を実施

【木曽森林管理署】

6月1日（日曜日）御岳国有林（長野県木曽郡王滝村）にて、中日森友隊主催による「国民の森」の見学会が実施されました。

「国民の森」は、中日新聞社の創業百周年記念事業行事として、緑と水を守り、治山治水、森林・林業への意欲を高め、うるおいのある国づくりを図ることを目的として、中日新聞社やボランティアの協力により造成された森林です。

本見学会の参加者は、当時、国民の森の造成に携わったボランティアの皆さん（13名）ですが、令和元年以降、新型コロナウイルスの影響等で見学会の開催が出来なく、久しぶりの見学会であることから現地の状況や当時植樹した樹木の成長に驚き感動し、林内を散策して国民の森を堪能しました。

その後、「国民の森」、「御岳崩れ」の跡地、濁川（赤川）復旧治山工事現場を一望できる幕岩展望台に移動し、当署職員が土石流による被害の大きさ、「国民の森」の造成、復旧治山工事などについて、説明しました。

当見学会を開催することにより、長野県西部地震の被害の甚大さを再確認していただくとともに、治山事業等により荒廃地を復旧して行く経過、取組について知っていただくよい機会になりました。



幕岩展望台での当署職員による説明

